

[様式14]

(対象事業：2. ミュージアムを核とした地域文化資源の整備・活用に係わる事業)

事業名：小野市立好古館地域展開催事業

事業者名：小野市立好古館

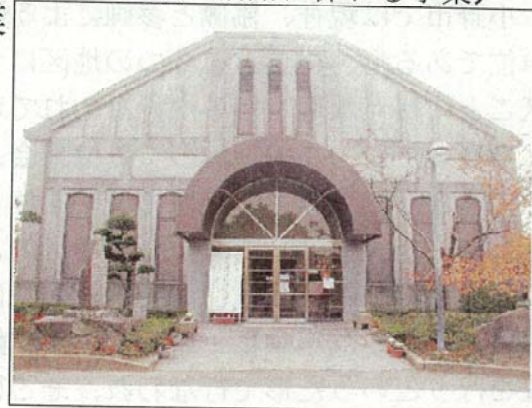
連携事業館名：

住所：兵庫県小野市西本町477

TEL：0794-63-3390

FAX：0794-63-3462

HPアドレス：<http://www.city.ono.hyogo.jp/~kokokan/>



### ①施設概要

小野市立好古館は、小野市市制40周年を記念して計画され、平成2年に開館しました。小野市を中心に北播磨地域の歴史民俗資料の保存と公開を目的とし、常設展示のほか特別展や企画展、各種講演会や講座、音楽会なども開催し、市民文化の中核施設となっています。

### ②事業の意図目的

郷土の歴史を小学生中学生を中心とする住民自らが調査し、自分達の手で展示することにより、郷土への誇りを持ち、住民自身による町おこしの実現を図る。  
今年度は、特に古代中世の遺跡と、地域全体の水利、小字に注目して調査、展示を行った。

### ③事業概要

小野市内の河合地区12の町と自治会を対象に、それぞれの町の将来を担う小学生・中学生を中心に、小学校、中学校、神戸大学とも連携して自分達の住む町の歴史を掘り起こし、その成果をまとめ、地域に残された歴史資料民俗資料を住民自らの手で展示した。

また、関連事業として、中世に播磨国を治めた赤松氏に関連する講演会や見学会を開催した。

なお、町の歴史調べ学習では、神戸大学との連携のもと、博物館実習生に調査とまとめ、展示作業まで関わってもらい、地域の歴史文化遺産の保存活用を担うリーダー的な存在としての学芸員を養成するという試みを行った。

### ④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他 ( 展示図録 )

作成した報告書等

ビデオ ( )

冊子 ( 講演会資料、見学会資料、鑑賞の手引き、関係者記念冊子 )

その他 ( )

### ⑤参加者状況

参加者人数 延べ 2986 人

内 訳

調査参加者 延べ1043名

特別展見学者 1505名 (好古館会場)

(うち、講演会参加者79名、見学会参加者37名)

地域展見学者 438名 (コミセンかわい会場)

(うち、発表と講演会参加者80名)



### (1) 事業の実施状況について

小野市では現在、協働と参画による町づくりを進めるため、明治時代に成立した行政単位である町・村ごとに6つの地区に分け、それぞれ地域づくり協議会が結成され、地区ごとに様々な取り組みが行なわれている。

当事業では、この地域づくり協議会、教育文化の分野で小野市と協定を結んでいる神戸大学とが協力して、地域の歴史を掘り起こし、それを地域の若い世代に伝えていくとともに、広く発信していくことを目的としている。

歴史の掘り起こしは、区長・役員をはじめ、老人会、子ども会の方々にも参加してもらい、子ども（小学生・中学生）が高齢者から聞き取りを行ったり、現地に行って調査を行うといった形で行なわれ、そこに好古館職員や神戸大学の研究員も同行して調査を側面から支援する形で行なった。

また、神戸大学との連携事業として、歴史調べのときに、博物館実習の学生を同行させ子供たちと一緒に地域の歴史調べをしてもらい、必要なときには子供たちに助言を行ってもらった。これは、地域の文化遺産の保存・活用を進めるリーダーとして学芸員をとらえ、その養成のモデルケースとしてこの事業が適しているのではないかと考えられたからである。

この地域展の進め方を具体的に日程を追って紹介する。

4月10日 各施設・機関の代表または実務者が集まり今年度の進め方について打ち合わせを行う。場所はコミュニティセンターかわい（以下「コミセン」と略す。）参加者は地域づくり協議会、コミセン、好古館。  
※通常であればもう一度打ち合わせ会を行うが、河合地区は今年度で3年目であるため1回のみ開催となった。

5月15日 地域づくり協議会地域展部会（以下、「地域展部会」という。）、神戸大学等の関係者が今年度調査対象となる赤松氏関係の遺跡・史跡等を視察。その後、河合小学校で地域展部会、河合地区の区長・役員、学校関係者などが集まり懇談会を開催。

5月20日 地域展部会の管外研修として兵庫県立歴史博物館で中世担当学芸員から赤松氏についての講義を受ける。神戸大学から担当教官・博物館実習生も参加。

6月21日 三和町での町別説明会実施。これ以降、順次各町での説明会を開催。

6月22日 青野ヶ原グリーンハイツ

6月23日 栗生町、新部町。

6月24日 昭和町、復井町・西山町、河合西町。

6月29日 桜台。

7月 1日 青野ヶ原町、河合中町。

7月 7日 旭町。

7月23日 青野ヶ原グリーンハイツを皮切りに各町の歴史調べ始まる。

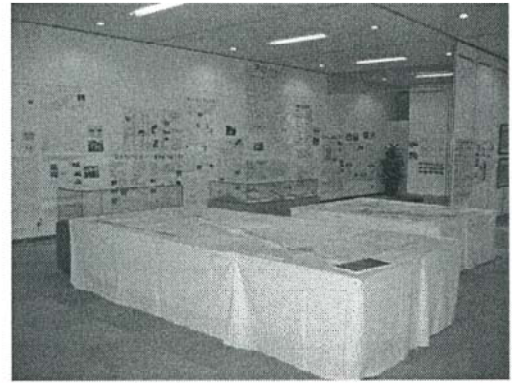
復井・西山町（8/4、8/12）

青野ヶ原町（7/26、7/30）



地域の歴史調べ（現地調査）

河合中町（8/9、8/10）  
 河合西町（7/23、7/24）  
 新部町（7/27、8/1、8/4）  
 旭町（7/30、7/31）  
 昭和町（7/28、7/29）  
 三和町（7/28、7/29）  
 栗生町（7/24、7/27）  
 桜台（7/25、8/4）  
 青野ヶ原グリーンハイツ（7/23、  
 7/26）



展示のようす

町の歴史調べ延べ参加人数 1043名。

10月20日 特別展開会式開催。（参加者数 名）

11月11日 講演会「中世の河合郷と赤松氏」開催。

講 師 市澤 哲（神戸大学大学院人文学研究科准教授）

会 場 兵庫県立小野高等学校百周年記念館

時 間 10時30分～12時00分

参加者 79名

11月11日 見学会「河合の中世城館と赤松氏」開催。

講 師 北村 正義（明善寺住職）

西田 猛（好古館）、粕谷修一（好古館）

参加者 37名

11月25日 好古館展示終了

入館者 1505人

11月30日 コミセン会場展示作業

12月 1日 コミセン展示開催。

12月 9日 子どもによる調査の発表会、地  
 域づくり協議会主催講演会

参加者 80名

会 場 コミセンかわい

12月26日 コミセン展示終了

入場者数 438名

総入場者 2426名



見学会のようす

## （2）地域との連携について

過去の地域展と同様この企画のもっとも重要な部分は、住民の参加を得ることである。3年計画で行ってきた河合地区の地域展では、地区の町づくりの中心的な役割を担う地域づくり協議会を中心に各自治会と協力して調査を行ったため、各町の歴史に詳しい高齢者の方を紹介していただいたり、子ども会への手配などがスムーズにできたため、調査は複数にまたがるが、日程を短縮し、集中して行うことができた。

また、神戸大学の協力を得られたことで、他の地域での同じような事例があることや



或はこのような面が他の地域と異なっているということを直接研究者から聞くことができ、意味がよくわからないまま代々引き継がれてきた行事への考え方が変わってきた。との意見もあった。

このように、地域や小学校、中学校、大学などいろいろな知識や経験を持つ人たちが意見を交換することによってそれぞれの町で行われている行事などが見直され地域の活性化に繋がっていくようになれば良いのではないかと考える。

### (3) 成果物について

この特別展では、小学生・中学生の調査成果を模造紙にまとめ、それが展示の1つの中心となる。これらの調査成果をまとめた模造紙は特別展終了後は各町に保管されている。

また、地域展では、特別展部分のほかに子どもの調査成果も図録に掲載している。これは、通常特別展図録は、特に興味のある方以外は配布しても見てもらえる機会が少ない。そこで子供の作品を掲載することにより見てもらう機会が増え、地域の歴史に興味を持ってもらえる機械が増えると考えからである。

今回の特別展図録では、神戸大学との連携事業の総括も兼ねたため、神戸大学の教員・研究員の原稿を14ページ、子どもの作品等を90ページとした。模造紙にまとめてもらった子ども達の成果作品は、子供たちの思い出に残り、保護者には親しみを持ってもらえるようそのまま写真版で掲載した。

なお、この図録は、調査の対象となった町の全戸に無償配布し、残部は交換図書として関係機関等へ配布した。

### (4) 参加者の反応

#### 調査

調査活動は、夏休み中に行なったため、特に中学生は、部活動との日程の問題から参加が難しい面もあった。しかし、忙しい時期にもかかわらず、積極的に参加してくれた。また、保護者や自治会役員の方も子供の調査に非常に熱心で、調査日以外にも児童・生徒とともに自主的に引率して、調査へ協力してもらえた。

調査内容の面では、児童・生徒・保護者ともに自分の住んでいる町の普段何気無く見ているものでも新しい発見があったり、今まで気付かなかったものが意外と多くあったことに驚いていたし、大学の研究者から直接話を聞いたことも良い刺激になっていた。

#### 展示

展示では、特別展部分が約四分の一、小学生・中学生の調査作品と地域の歴史資料が約四分の三の割合で展示室に配置されたが、会場の広さの都合で、各町の歴史に関する歴史資料を小中学生の作品に関連づけて全て配置することまではできなかった。

来館者の反応は、地元に住む方でも意外と身近なところでも知らないことがあったり、作品を見てそこから話題が広がったりしていた。そして小学生中学生の作品が良くまとまっていることにも驚いていた。

また、家族そろって展示を見に来る姿も多く見られ、世代間の交流のよいきっかけとなったように思われる。



(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

この特別展では、地域の埋もれた歴史を掘り起こすという点を目的の1つとしている。地域住民は今まで埋もれていた歴史を掘り起こしたり、今まで行なっていた行事を見直す機会となり、自分達の住む地域に誇りを持ってもらったようである。

また、地域の歴史の調べ学習のとき、中学生や小学生高学年が小学生低学年をまとめて歴史調べを行っていた。また、高齢者の方たちも自分たちの持っている知識や経験を若い世代に伝える機会となり熱心に指導していただいた。普段膝を突き合わせて話をする機会の少ない世代との交流の機会が出来たことで、お互いの距離が縮まり、地域で子供たちを見守らないといけないという機運が高まった。

(6) 新聞記事等

○新聞記事

今年秋に小野市立好古館（小野市西本町）で開催される特別展「河合地区の古代・中世遺跡と赤松氏」に向け、同市河合地区の小中学生らが、地域の歴史調査に取り組んでいる。地元の高齢者らから村の歴史を聞き取り、現場を訪れ、地域の歩みをパネルなどにまとめて特別展で紹介する。

好古館は二〇〇二年度から「文化庁芸術拠点形成事業」の指定を受け、市内の町・地域ごとの歴史を発掘し、資料などで紹介する「地域展企画」を続けている。河合地区では〇五年度から毎年テーマを変えて歴史

調査し、特別展を開いており、〇七年度が最終年度。

各町の小学一年―中学三年が五、六人ごとのグループに分かれ、市と地域活性化協定を結ぶ神戸大文学部地域連携センター研究員らがサポートする。調査項目は「水利や地名と小字」「古墳や城跡」「伝説や昔の道と道しるべ」などを計画。夏休みの七月二十三日から今月十日まで続ける。

同市新部町の新部会館で、水利についての調査結果を模造紙に書き込んでいた河合中二年、西美有紀さん（八）は「昔の人が水を引くために苦労し

# 小中学生が郷土史調査

## 高齢者から学ぶ



地元住民から地域の歴史を学ぶ子どもら＝小野市新部町

ていることがよく分かった」と話した。調査に協力している河合地区地域づくり協議会地域展部会長の田中嘉昭さん（六八）は「歴史調査を通じてふるさとへの愛着が増し、高齢者との触れ合いが広がるきっかけになれば」と期待していた。

特別展は十月二十日―十一月二十五日、好古館で、子どもらの調査結果は展示図録にも掲載し、地区内の全戸に配布する。同館 ☎ 0794・63・3390

（金井恒幸）

神戸新聞 2007年8月4日（土）

神戸新聞（北播版）平成19年8月4日 朝刊





小野市の河合地区の子どもたちが調査した成果を紹介する特別展＝同市立好古館で

# 河合の歴史浮き彫りに

小野・好古館  
あす講演会も

## 子供ら調査成果発表

小野市西本町の市立好古館で25日まで、特別展「河合地区の古代・中世遺跡と赤松氏」が開かれている。神戸大の協力で河合地区の小中学生や大人たちが取り組んだ地元調査の成果を紹介し、同

地区の歴史を浮き彫りにしている。11日には講演会と見学会がある。

河合小と河合中の子どもたちは、夏休みを中心に12の町(区)ごとに地域の町名や小字名、古道と道標、古墳や城跡などを調べた。炎天下に現地を歩き、本に当たったり、お年寄りから話を聞いた。その成果を地図や写真を添えて模造紙にまとめた。粟生坂古墳群を調べた子どもたちは「僕たちが今まで遊んでいた土山が、実は古墳だったとわかってびっくりした」と感想を書いている。

河合地区は中世播磨の

大名、赤松氏の勢力下にあった。赤松円心の坐像や赤松系図、城跡の出土品などのほか、古代から近世の遺物や古文書なども展示している。

11日午前10時半から、市立好古館近くの県立小野高校で、市澤哲・神戸大大学院准教授が「中世の河合郷と赤松氏」のテーマで話す。午後1時半に市立コミニティセンターに集まり、見学会「河合の中世城館と赤松氏」がある。

特別展の入館料は大人300円、小中学生100円。問い合わせは好古館(0794・63・3390)へ。

朝日新聞(東播版) 平成19年11月10日 朝刊

同様の新聞記事

神戸新聞(北播版)  
新東播

平成19年11月 8日 朝刊  
平成19年10月15日